舗装個別施設計画

令和7年10月

高槻市

目 次

1	道路の現状 1
	1.1 管理道路の現況(全体)
2	舗装の維持管理の基本的な考え方2
	2.1 舗装管理の基本方針 2
	2.2 点検方法・点検頻度 3
3	舗装の管理基準と診断区分
	3.1 舗装の管理基準 4
	3.2 舗装の診断区分 4
4	調査結果と健全性の診断
	4.1 舗装の調査結果(幹線道路)
	4.2 健全性の診断区分(幹線道路)
5	今後の方針と優先順位付け(幹線道路) 8
	5.1 今後の方針 8
	5.2 優先順位の考え方と結果
6	修繕実施計画 1
	6.1 幹線道路 11
	6.2 2 車線道路および生活道路など1

1 道路の現状

1.1 管理道路の現況(全体)

- ・本市は現在、約900kmの道路を管理しており、うち舗装された道路 は約820kmで舗装率は91.4%となっている。(表 1-1 参照)
- ・このうち基幹的道路網を形成する比較的大型車交通量が多い路線およびバス路線(以下、「幹線道路」という)に該当する約72kmについては、交通・物流、緊急時の避難や物資の輸送道路として重要な機能を有することから、道路の維持修繕を計画的かつ効率的に実施できるよう令和5年度に2回目の路面性状調査を実施しました。

表 1-1 管理道路の現状

道路種別	別		延長	舗装率	
坦 哈俚加	官垤処女	As 舗装	Co 舗装	 	
計	893.5 km	800.6 km	16.1 km	91.4%	

2 舗装の維持管理の基本的な考え方

2.1 舗装管理の基本方針

- ・舗装の管理にあたっては、各路線の重要性や受け持つ機能などに応 じた維持管理手法を適用し、効率的な維持管理を行うことが重要で ある。
- ・本市では、上位計画である「高槻市道路施設長寿命化計画」において、①幹線道路、②幹線道路以外の2車線を有する道路(以下、「2車線道路」という)、③各地域に居住・生活する人が幹線道路等主要な路線に出るまでに利用する生活道路など(以下、「生活道路など」という)に分類し、その分類ごとに維持管理手法及び管理目標を設定している。
- ・本計画では上位計画で示された維持管理手法と管理目標(表 2-1) と、前述の①②③に分類された路線ごとの維持管理手法(表 2-2) に基づき、路線ごとに適切な措置(表 2-3)を実施していくものと する。

表 2-1 上位計画に示される維持管理手法と管理目標(抜粋)

維持管理手法	管理目標
早期保全型	・定期点検や日常点検に基づき、予防措置を含めた計画的な対 策を講じることで、比較的高い水準で施設の健全性を保ち 長寿命化を図る。
通常保全型	・定期点検や日常点検に基づき、施設の機能、または、安全性低下につながる損傷を早期に発見する。 ・損傷程度が軽微な段階で対策を講じることで、長寿命化を図る。
機能更新型	・定期点検や日常点検に基づき、施設の機能や安全性に支障が生じる、または、その恐れがある段階で補修を行う。・施設の機能を損なわないよう、軽微な補修に留め、部品調達が不可になった際に更新する。

出典:「高槻市道路施設長寿命化計画」

表 2-2 上位計画に示される維持管理手法と対象路線(抜粋)

維持管理手法	対象路線
早期保全型	・大型車交通量が多い路線及びバス路線(幹線道路)
通常保全型	・早期保全型以外で2車線を有する道路(2車線道路)
機能更新型	・生活道路など

出典:「高槻市道路施設長寿命化計画」

表 2-3 維持管理手法と措置方針

対象路線	維持管理手法	措置方針
幹線道路	早期保全型	定期点検によりMCI≦4の路線について、最適な タイミングで計画的修繕を予防保全的に実施する ことで、舗装を長寿命化する
2 車線 道路	通常保全型	日常点検等により損傷程度が軽微な段階で補修を 実施することで、舗装を長寿命化する
生活道路など	機能更新型	日常点検等により機能や安全性に支障が生じる、または、その恐れがある段階で軽微な補修を行う

2.2 点検方法・点検頻度

・点検方法及び点検頻度を表 2-4 に示す。

表 2-4 舗装の点検方法・点検頻度

対象路線	維持管理手法	点 検 方 法	点 検 頻 度		
幹線道路	早期保全型	既存・新技術を含む 調査方法	劣化状況に応じ 適切な期間で 定期点検を実施		
2 車線道路	通常保全型	日常点検などを通じた目	目視による路面状況把握		
生活道路など	機能更新型	日常点検などを通じた	目視による路面状況把握		

※適切な期間とは、5~10年を目安としている

3 舗装の管理基準と診断区分

3.1舗装の管理基準

・舗装の管理基準を表 3-1 に示す。MCIが 4.0 以下の路線や区間は 計画的に修繕や補修を行う。

表 3-1 舗装の管理基準と状態

管理基準	状態
MC I >5	望ましい状況である
4 <mc i="" th="" ≦5<=""><th>概ね望ましい状況である</th></mc>	概ね望ましい状況である
3 <mc i="" th="" ≦4<=""><th>損傷がある程度進み、計画的補修が必要</th></mc>	損傷がある程度進み、計画的補修が必要
MC I ≦3	損傷が著しく、早急な補修が必要

管理基準

3.2 舗装の診断区分

- ・舗装の健全性について、「舗装点検要領」(平成29年3月:国土交通 省道路局 国道・防災課)および「舗装点検要領」(平成28年10 月:国土交通省 道路局)を参考に表3-2に示す診断区分を設定し た。
- ・幹線道路については、定期点検から算出されるMCIにより、IからⅢの3段階、かつ、Ⅲ内をひび割れ率により、更に3つに区分する。
- ・2車線道路および生活道路などについては、日常点検などを通じた 目視による路面状況の把握により、IからⅢの3段階に区分する。
- ・舗装の健全性診断のフローを図 3-1 に示す。

表 3-2 舗装の健全性の診断区分

		女 し こ 日		· · · NP · · · · · · · · · · ·		
					診断区分Ⅲ	
					(修繕段階)	
対象路線	維持 診断区分 I 管理 (健全)	診断区分 II 表層機能 保持段階	Ⅲ-1 (表層修繕)	Ⅲ-1 (表層·基層 修繕	Ⅲ-2 (路盤 打換等)	
			ひび割れ率 40%未満	ひび割れ率 40%以上 50%未満	ひび割れ率 50%以上	
幹線道路	早期 保全型	MC I 5.0 超	MC I 4.0超 5.0以下	1	MC I 4.0以下	₹

	維持	目視による路面状況の把握				
対象路線	管理 手法	診断区分 I	診断区分Ⅱ	診断区分Ⅲ		
2 車線道路	通常保全型	健全	表層機能保持段階	修繕段階 舗装のめくれ、わだち掘れ、亀甲状ひ び割れ等の異常がみられる場合		
生活道路など	機能更新型	健全	表層機能 保持段階	修繕段階 舗装のめくれ、わだち掘れ、亀甲状ひ び割れ等の異常がみられる場合		

<MC I とは>

舗装の「わだち掘れ」「ひび割れ」「平坦性」をもとに道路舗装の 劣化状態を定量的に評価し、補修や修繕の優先順位や維持管理計画 を立てるために用いられる維持管理指数でかつ舗装の健全性を示す もの。

<参考>

【表層機能保持段階】

損傷レベル中:管理基準に照らし、劣化の程度が中程度である。

【修繕段階】

損傷レベル大:管理基準に照らし、それを超過している又は早期 の超過が予見される状態である。

出典:「舗装点検要領」 平成28年10月 国土交通省 道路局

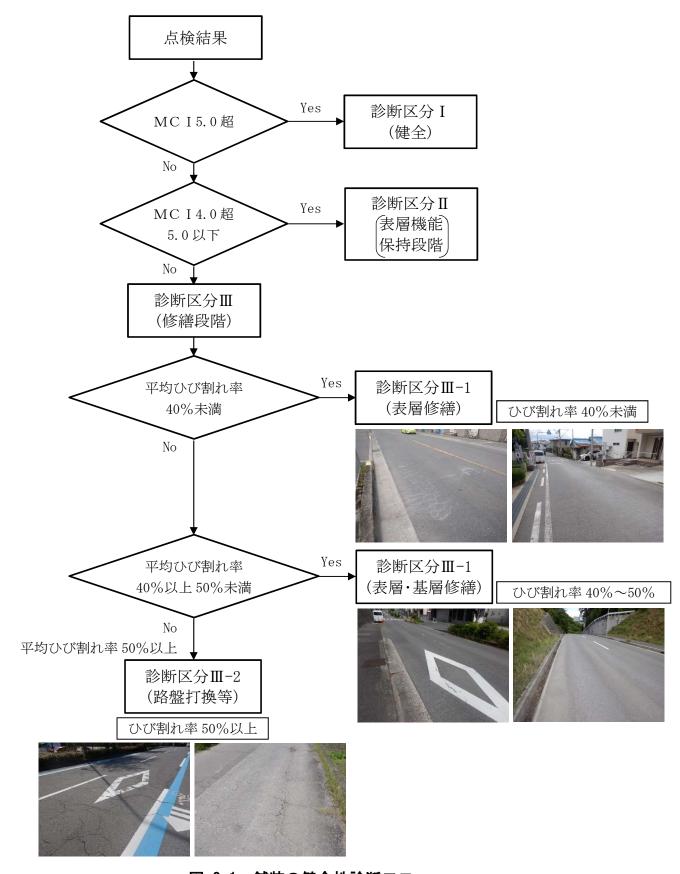


図 3-1 舗装の健全性診断フロー

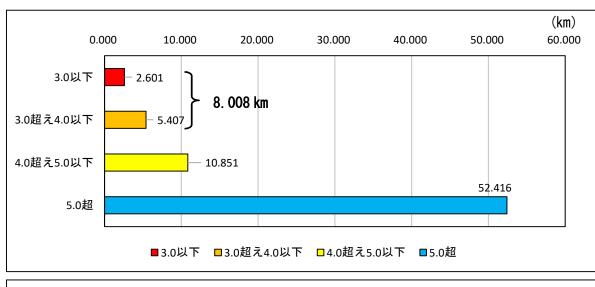
4 調査結果と健全性の診断

4.1 舗装の調査結果(幹線道路)

・幹線道路を対象に、98 路線、71.275 kmについて路面性状調査を実施 した結果を表 4-1、図 4-1 に示す。

表 4-1 調査結果 (令和5年度調査98路線)

<u> </u>	· (1-14 - 1-124-11-1	
管理基準	延長 (km)	割合 (%)
MC I >5	52. 416	73. 5
4 <mc i="" td="" ≦5<=""><td>10.851</td><td>15. 2</td></mc>	10.851	15. 2
3 <mc i="" td="" ≦4<=""><td>5. 407</td><td>7.6</td></mc>	5. 407	7.6
MC I ≦ 3	2. 601	3. 7
合計	71. 275	100



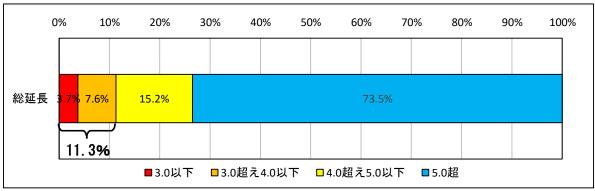


図 4-1 舗装の現状 (令和5年度調査98路線)

4.2 健全性の診断区分(幹線道路)

・調査結果に基づき、表 4-2 に幹線道路 71.275 kmの診断区分内訳を示 す。

診断区分Ⅲ (修繕段階) 維持 診断区分Ⅱ $\overline{\prod -1}$ **Ⅲ**−2 III-1診断区分I 表層・基層 路盤 表層機能 管理 (表層修繕) (健全) 打換等 修繕 保持段階 分類 ひび割れ率 対象路線 ひび割れ率 ひび割れ率 40%以上 50%以上 40%未満 50%未満 MC I MC I 4.0超 MC I 4.0以下 5.0超 5.0以下 5.013 km 1.350 km 1.645 km 早期 幹線道路 52. 416 km 10.851 km 保全型 8.008 km

表 4-2 幹線道路の診断区分内訳

5 今後の方針と優先順位付け(幹線道路)

5.1 今後の方針

・調査結果を受け、管理基準であるMCIが4以下と判定された路線 や区間 (8.008 km、11.3%) を対象に、優先順位付けを行い、計画的 に修繕を行う。(表 5-1)

	表 5-1	今後の方針	(令和5	年度調査 98	路線)
管理基準	舗装の	の状況	延長 (km)	割合 (%)	今後の
					70 n+ + -

管理基準	舗装の状況	延長 (km)	割合 (%)	今後の方針(対応)
5 <mc i<="" td=""><td>望ましい状況</td><td>52. 416</td><td>73. 5</td><td>現時点では対策の必要性 はない</td></mc>	望ましい状況	52. 416	73. 5	現時点では対策の必要性 はない
4 <mc i="" td="" ≦5<=""><td>概ね望ましい状況</td><td>10. 851</td><td>15. 2</td><td>今後の状態を注視する</td></mc>	概ね望ましい状況	10. 851	15. 2	今後の状態を注視する
MC I ≦ 4	計画的補修または 早急な修繕が必要	8. 008	11. 3	優先順位付けに基づき 詳細調査及び対策を行う

5.2 優先順位の考え方と結果

- ・幹線道路を対象に、表 5-2 に示す評価指標および評価方法を用い、 修繕の優先順位を決定する。
- ・判定の第1段階として、主項目 (MCI等) について評価指標に対する評価(配点付け)を行う。
- ・判定の第2段階として、従項目(交通量等)について評価指標に対する評価(配点付け)を行う。
- ・主項目配点の合計の大きい順に優先度が高いと判定し、主項目配点が同等となった場合、従項目の配点の合計が大きい順に優先度が高いと判定する。表 5-3 に対策の優先順位を示す。

表 5-2 評価指標及び評価方法

評価指標 評価方法 15 点 2.0 未満 15 点 2.5 未満 10 点 3.0 未満 5 点 3.5 未満 3 点 4.0 未満 1 点 1.0 未満 1.0 点 1.5 未満 3 点 3.0 以下 1 点 1.5 未満 3 点 3.0 以下 1 点 1.5 未満 3 点 3.0 以下 1 点 1.5 未満 5 点 3.0 以下 1 点 1.5 点 60 以上 10 点 60 以上 10 点 60 以上 10 点 60 以上 3 点 40 未満 1 点	大 3 ⁻ 2 評価指係及ひ評価力法								
主項目 2.5未満 … 10点 車 3.0未満 … 5点 3.5未満 … 1点 1点 4.0未満 … 10点 1.5未満 … 5点 4.0未満 … 10点 3点 3.0以下 … 1点 3点 70以上 … 15点 60以上 … 10点 60以上 … 10点 3点 40未満 … 1点 1点 交通量 ・大型車交通量区分(台/日・方向) 次通量 N4 … 5点 ・大型車交通量区分(台/日・方向) N3 … 3点 N2 … 1点 が道状況 カ田 … 1点 都市計画道路 3点 地域緊急交通路 … 5点 地域緊急交通路 … 5点 地域緊急交通路 … 5点 地域緊急交通路 … 5点 接続避難路 … 3点		評価指標	評価方法						
主項目 3.0未満 3.5未満 3.点 最小MC I 1.0未満 10点 最小MC I 1.5未満 5点 2.0未満 3点 3点 3.0以下 1点 15点 60以上 10点 15点 60以上 10点 5点 40以上 3点 40未満 1点 次通量 N5以上 10点 ・大型車交通量区分(台/日・方向) N3 3点 N2 1点 N5以上 10点 N3 3点 3点 N2 1点 N1の点 市街地 5点点 平地 3点点 山地 1点 1点 都市計画道路 都市計画道路 3点 地域緊急交通路 5点 5点 接続避難路 3点			2.0 未満15 点						
主項目 3.5 未満 4.0 未満 1.点 最小MCI 1.0 未満 10 点 最小MCI 1.5 未満 5点 2.0 未満 3点 3点 3.0 以下 1点 70 以上 15点 60 以上 10点 50以上 5点 40 以上 3点 40 未満 1点 次通量 ・大型車交通量区分(台/日・方向) N3 3点 次2 1点 N2 1点 が道状況 DID 10点 都市計画道路 都市計画道路 3点 地域緊急交通路 5点 5点 接続避難路 3点			2.5 未満10 点						
主項目 4.0未満 1点 最小MCI 1.0未満 10点 1.5未満 5点 2.0未満 3点 3.0以下 1点 70以上 15点 60以上 10点 50以上 5点 40以上 3点 40未満 1点 交通量 N4 5点 ・大型車交通量区分(台/日・方向) N3 3点 N2 1点 が道状況 DID 10点 市街地 5点 平地 3点 山地 1点 都市計画道路 3点 地域緊急交通路 5点 接続避難路 3点		平均MC I	3.0 未満 5 点						
主項目 1.0未満 10点 最小MCI 1.5未満 5点 2.0未満 3点 3.0以下 1点 70以上 15点 60以上 10点 50以上 5点 40以上 3点 40未満 1点 N5以上 10点 N4 5点 N2 1点 DID 10点 市街地 5点 平地 3点 山地 1点 都市計画道路 都市計画道路 3点 地域緊急交通路 5点 接続避難路 3点			3.5 未満 3 点						
主項目 最小MC I 1.5未満 … 3点 2.0未満 3.0以下 1点 5点 2.0未満 3点 3.0以下 1点 花項目 平均ひび割れ率 (%) 5点 40以上 10点 50以上 5点 40以上 3点 40未満 1点 花項目 下少型車交通量区分 (台/日・方向) N3 … 3点 N2 1点 DID 10点 市街地 5点 平地 3点 山地 1点 都市計画道路 都市計画道路 3点 地域緊急交通路 5点 接続避難路 3点 花項目 防災上重要路線 地域緊急交通路 5点 接続避難路 3点			4.0 未満 1 点						
日			1.0 未満10 点						
日	主	是小MC I	1.5 未満 5 点						
3.0以下 … 1点	垻 目	取//WCT	2.0 未満 3 点						
平均ひび割れ率 (%) 60 以上 50 以上 5点 40 以上 3点 40 以上 3点 40 未満 1点 N5 以上 10点 N5 以上 10点 N5 以上 10点 N5 以上 10点 N3 3点 N2 1点 N2 1点 N2 1点 下街地 5点 下街地 5点 下街地 5点 平地 3点 山地 1点 都市計画道路 都市計画道路 都市計画道路 3点 地域緊急交通路 … 5点 按続避難路 3点 按続避難路 3点			3.0以下1点						
平均ひび割れ率(%) 50以上 5点 40以上 3点 40 未満 … 1点 N5以上 10点 N5以上 10点 N5以上 10点 N3 3点 N2 1点 N3 3点 N2 1点 N3 3点 N2 1点 N3 3点 N2 3点 加地 1点 都市計画道路 都市計画道路 … 3点 地域緊急交通路 … 5点 接続避難路 … 5点 接続避難路 … 3点			70 以上15 点						
花項目 40 以上			60 以上10 点						
後項目 40未満・・1点 交通量・大型車交通量区分(台/日・方向) N3 以 3点 N2 1点 ・大型車交通量区分(台/日・方向) N3 に 10点 N3 に 3点 N2 1点 が道状況 DID に 10点 市街地 5点 平地 3点 山地 に 1点 都市計画道路 都市計画道路 2 都市計画道路 で 3点 地域緊急交通路 で 5点 接続避難路 で 3点 防災上重要路線 接続避難路 3点		平均ひび割れ率(%)	50 以上 5 点						
で通量 N5以上 10点 ・大型車交通量区分(台/日・方向) N3 3点 N2 1点 DID 10点 市街地 5点 平地 3点 山地 1点 都市計画道路 都市計画道路 3点 地域緊急交通路 5点 按続避難路 3点 接続避難路 3点			40 以上 3 点						
交通量 ·大型車交通量区分(台/日·方向) N3 3点 N2 1点 DID 10点 市街地 5点 平地 3点 山地 1点 都市計画道路 都市計画道路 3点 地域緊急交通路 5点 接続避難路 3点			40 未満 1 点						
・大型車交通量区分(台/日・方向) N3 … 3 点 N2 … 1 点 が2 … 1 点 DID … 10 点 市街地 … 5 点 平地 … 3 点 山地 … 1 点 都市計画道路 都市計画道路 … 3 点 地域緊急交通路 … 5 点 接続避難路 … 3 点			N5以上10点						
従項目 N2 1点 沿道状況 DID 10点 市街地 3点 山地 1点 都市計画道路 都市計画道路 3点 地域緊急交通路 5点 接続避難路 3点		交通量	N4 ····· 5 点						
従項目 DID ···································		・大型車交通量区分(台/日·方向)	N3 ······ 3 点						
従項目			N2 ······ 1 点						
項目 沿道状況 平地 ····································		以 才 大公口	DID ······10 点						
1 平地 ····································			市街地 5点						
加地1点都市計画道路都市計画道路地域緊急交通路5点防災上重要路線接続避難路		们 坦 狄狄	平地 3点						
地域緊急交通路 … 5 点 防災上重要路線 接続避難路 … 3 点			山地1点						
防災上重要路線 接続避難路 3点		都市計画道路	都市計画道路 3点						
			地域緊急交通路 … 5 点						
指定なし 1点		防災上重要路線	接続避難路 3点						
1470 0.0			指定なし 1点						

表 5-3 対策の優先順位

優先	敗約来旦	吹伯力	距	延長		
順位	路線番号		路線名	自	至	(m)
1	0110	B-49	古曽部紅茸線	180	295	115
2	0012	A-12	日吉台芥川線	1330	1390	60
3	0053	A-53	阿武野奈佐原線	1660	1740	80
4	0103	B-42	名神南側道1号線	60	320	260
5	0002	A-2	塚脇浦堂線	35	521	486
6	0062	B-1	樫田3号線	0	300	300
7	0058	A-58	富田芝生1号線	0	140	140
8	6035	181-113	唐崎西113号線	0	60	60
9	0042	A-42	西冠大塚線	280	340	60
10	0033	A-33	梶原道鵜線	60	540	480
11	0004	A-4	宮田塚原線	2005	2165	160
12	0167	B-107	桧尾川左岸1号線	960	1020	60
13	0012	A-12	日吉台芥川線	2250	2310	60
14	0053	A-53	阿武野奈佐原線	1120	1200	80
15	0239	8-3	奈佐原3号線	620	698	78
16	0046	A-46	唐崎三島江線	342	422	80
17	0073	B-12	奈佐原南平台線	340	600	260
18	0009	A-9	南平台日吉台2号線	880	1000	120
19	8000	A-8	宮之川原大蔵司線	292	532	240
20	0004	A-4	宮田塚原線	685	845	160
21	0153	B-92	下田部芝生線	180	440	260
22	0166	B-106	桧尾川右岸1号線	0	200	200
23	0052	A-52	下の口日吉台線	400	520	120
24	0154	B-93	芥川右岸1号線	500	640	140
25	0171	B-111	淀川堤防1号線	560	1240	680
26	0053	A-53	阿武野奈佐原線	520	820	300
27	0046	A-46	唐崎三島江線	22	102	80
28	0046	A-46	唐崎三島江線	522	777	255
29	0967	24-101	西之川原101号線	41	100	59

頂州			距	延長		
優先順位	路線番号		路線名	自	至	(m)
30	0004	A-4	宮田塚原線	1465	1525	60
31	0016	A-16	富田北駅宮田線	480	560	80
32	0005	A-5	郡家茨木線	2120	2234	114
33	0001 A-1		辻子下の口線	2200	2360	160
34	0042	A-42	西冠大塚線	0	180	180
35	0042	A-42	西冠大塚線	660	760	100
36	0166	B-106	桧尾川右岸1号線	580	680	100
37	4422	132-209	城北町209号線	0	60	60
38	6378	A-65	原成合線	1340	1560	220
39	0003	A-3	土室奈佐原線	880	1000	120
40	0012	A-12	日吉台芥川線	1710	1810	100
41	0175	B-115	柱本住宅線	1000	1124	124
42	6378	A-65	原成合線	260	480	220

6 修繕実施計画

6.1 幹線道路

・優先順位の判定結果より、令和6年度から令和10年度までの5年間 における修繕実施計画を表6-1に示す。

6.2 2 車線道路および生活道路など

・日常点検などを通じて目視による路面状況を確認し、診断区分Ⅲと判定された場合、劣化状況に応じた補修を適宜実施する。

表 6-1 修繕実施計画

優先	路線番号		路線名	距離		延長	実施計画	
順位				自	至	(m)	詳細設計	修繕工事
1	0110	B-49	古曽部紅茸線	180	295	115	令和6年度	令和7年度
2	0012	A-12	日吉台芥川線	1330	1390	60	令和6年度	令和7年度
3	0053	A-53	阿武野奈佐原線	1660	1740	80	令和6年度	令和7年度
4	0103	B-42	名神南側道1号線	60	320	260	令和6年度	令和7年度
5	0002	A-2	塚脇浦堂線	35	521	486	令和6年度	令和8年度
6	0062	B-1	樫田3号線	0	300	300	令和6年度	令和8年度
7	0058	A-58	富田芝生1号線	0	140	140	令和7年度	令和9年度
8	6035	181-113	唐崎西113号線	0	60	60	令和7年度	令和9年度

令和10年度 路面性状調査を実施予定 (ただし、路面の劣化状況によっては調査時期の変更あり)